上野千鶴子氏の「老人ホームは嫌」が物議…現役医師「公費による延命と手厚い介護は見直す時期がきている」 2025/2/14(金)

医師の**筒井冨美さん**は「介護の現場の人材不足は深刻で、財政的にも公費による高齢者医療・介護で『可能な限り延命し手厚く介護』する現在のやり方を根本的に変える時期にきたのではないか」という――。

■進行する介護人材不足、進まぬ対策

介護業界の中でも、訪問看護を担うホームヘルパーの不足は特に深刻だ。
厚生労働省は「介護のしごと魅力発信等事業」を行っており、若い読者向けに雑誌『anan』や『POPEYE』への記事掲載、介護マンガ制作、ポータルサイト作成、各種イベントや動画配信など、それなりに予算と人員を費やしている。そうした予算を介護職の給料に回せばいいのでは。

■嵐を呼ぶ上野千鶴子氏インタビュー

雑誌『AERA』2024 年 12 月 23 日号に掲載された、フェミニストで東京大学名誉教授の上野千鶴子氏のインタビュー記事が SNS で物議を醸した。

◇ 私たち団塊の世代は物わかりのよい老人にはなりません。
◇ 暮らしを管理されたくない、
◇ 老人ホームに入りたくない、
◇ 子どもだましのレクリエーションやおためごかしの作業はやりたくない、
◇ 他者に自分のことを決めてほしくない、これが私たちです。
◇ 上の世代のように家族の言いなりにはなりません

■上野氏は「AI 介護もバカヤロー！」

2023 年 10 月発刊の『「おひとりさまの老後」が危ない！
＜特に
◆ テクノロジー系の人たちが、「これからは AI 介護です」とかって言うのを聞くと、バカヤローと思う。
(中略)

◇ 保育についてはAI化なんて誰一人言わないのに、年寄りについてはこんなに簡単に言うのは(中略)年寄りには人格がないとすら思っている>
在宅を含む介護サービスの現状維持を強く求めた。

■外国人介護士より死生観の見直しを

1学年200万人を超える団塊の世代が、「大雪でも毎日看護師が自宅訪問」のような在宅介護を希望者全員、いや一部の人であっても公費で受けることは、経済的にも人数的にも不可能である。「AI介護バカヤロー！」という上野氏の主張とは裏腹に、今後の公費介護は、施設介護を中心に、📍機械化・IT化などによる合理化や省人化は避けられないのではないか。

それでも、「❣どうしても自宅で介護」を希望するならば……。

- **親孝行な子供を育てておく**
- **自費で介護士を雇える資産を持つ**
- **要介護状態が長引く前に逝く**
- **長期化したら自宅は諦めて施設介護へ移る、のいずれかとなるだろう。**

手厚い福祉政策で定評のある北欧諸国だが、自分で食事をできなくなった高齢者には無理やり食事や水分補給などをしないで自然に看取るのが人間らしい死の迎え方だと考えられており、そのため、長期間寝たきりになる高齢者がほとんど存在しないという。

📍医師のひとりとして私は、

公費による高齢者医療介護で「可能な限り延命」するよりも「死生観の見直しによる穏やかな最期」にシフトする時期ではないか、と考えている。

筒井 冨美（つつい・ふみ） フリーランス麻酔科医、医学博士